

第 176 号 内容紹介

1, 南基正「非常戒厳の失敗を韓日・日韓市民連帯の契機に」

大統領は反乱の容疑で拘束されたが、突然の戒厳令宣布には背景があった。策動を封じ込めた市民と民主主義を日本の市民との連帯の新たな契機にと、ソウル大日本研究所教授の筆者がよびかける。

2, 吉岡正則「中国戦を想定した岩国基地の危険な変容」

第3海兵遠征軍と第7艦隊第5空母航空団という米軍の二つの「殴り込み部隊」の基地に。米軍との共作戦演習が常態化する基地の現状を報告。

3, B・ノートン「BRICS 拡大は何を意味するか」

インドネシアの加盟で10加盟国、8パートナー国となり、人口は世界の半分、経済規模では世界の四割以上に、G7をはるかに凌駕するようになった。

4, B.アモファ「アフリカ解放運動とテロリスト」

植民地支配者たちは、アフリカの解放運動に、どのようにして「テロリスト」のレッテルを張り、残虐な支配を正当化してきたか。ケニアのマウマウ運動などを例に説く。

5, M・ラバニ「シリア、崩壊文明は必ずよみがえる」

世界最古の文明が作り出したこの国が、どのような変遷をへてきたのか。
有数の中東問題専門家による略史。第一次世界大戦までだが、解釈の論争
点とともに豊富な文献紹介がつけられている。

その他の記事は「AALA ニュース編集日記」で参照できます ([aala_news](#) の編
[集日記 \(livedoo na 愛用紹介 r.jp\)](#))